

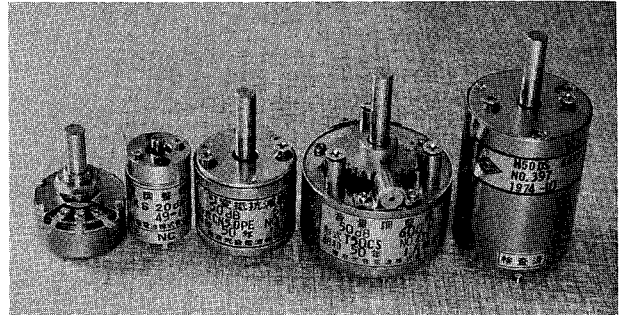
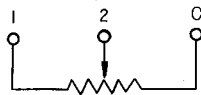
可変抵抗減衰器 音量調整器

概 説

本製品は高級音響機器用として開発された低雑音高品質な製品で、NHK、民放、録音スタジオ、高級ステレオ等に広くご使用いただいております。抵抗素子は経年変化及びノイズ発生率が少なく長期にわたり安定を保証できる弊社固定抵抗器を用いております。接触機構については、長期使用に耐え摺動ノイズ発生を少なくするために接点材質としては銀合金を採用し接触片圧にも十分な注意が払われております。

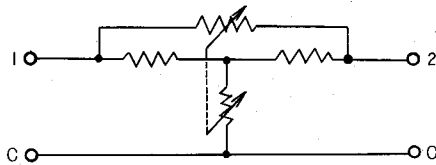
1 回路構成の説明

1-1 ポテンショメータ形 (P形)



P形は上図のように抵抗を直列に結線して出力側抵抗値、減衰量ともに段階的に変化できる可変抵抗器であります。出力は無限大インピーダンスで動作するものとして計算された抵抗値で構成されています。実際使用の場合、使用最高周波数における出力側のインピーダンスを考慮していただかなければ誤差を生ずる結果となります。

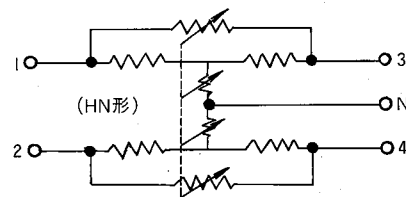
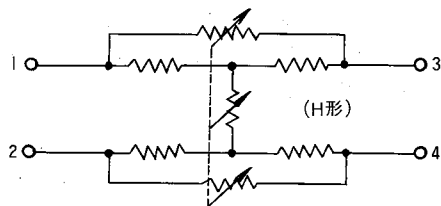
1-2 橋絡T形 (T形)



T形は上図のように結線し挿入損失 0dB、入出力インピーダンス一定値で減衰量を段階的に変化させることができ、線路の整合を乱すことがありません。T形は不平衡形でありますから、端子Cを「グラウンド」して使用しなければなりません。

「グラウンド」せず使用すると、減衰量20dB以上周波数10KHZ以上において甚だしく誤差を生じ、Cut-off(∞)点では実用にならなくなり、又雑音発生のおそれがあります。

1-3 橋絡H形 橋絡平衡H形 (H形) (HN形)



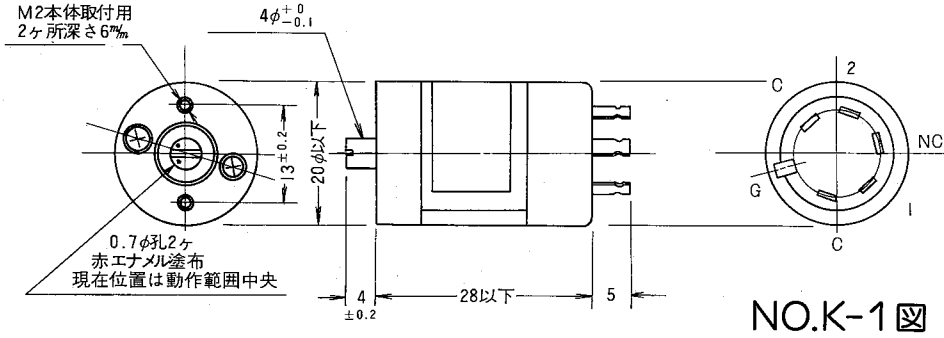
H形、HN形は上図のように結線し、挿入損失 0dB、入出力インピーダンス一定値で減衰量を段階的に変化させることができ、線路の整合を乱すことがありません。H形、HN形は平衡形で、平衡回路に挿入して、確実に動作しますが、平衡が崩れるような回路に使用されると誤差を生じます。

(高い減衰量の領域において特に甚だしい)例えば線路が長い場合には、橋絡平衡H形、(HN形)結線を使用し、中点Nを「グラウンド」することにより好結果がえられます。その他は、橋絡T形とほぼ同一使用条件であります。

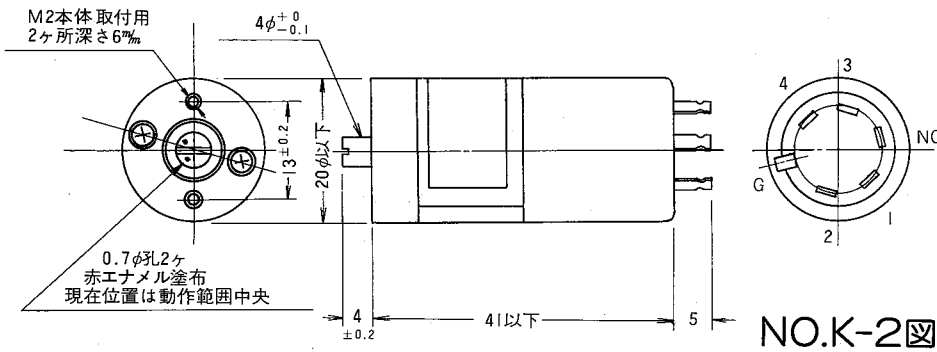


K形外觀図

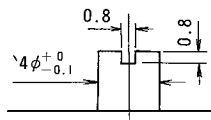
P形 T形(11ステップ)



P形二連 T形(21ステップ)



シャフト溝寸法図



K形 ATTENUATORS 一覧表 ※減衰方向は時計方向減又は増を示す

カタログ NO.	品名	回路 構成	最大 減衰量	減衰 分割	インピー ダンス	周波数 KHZ	1ステップ 角度	ステップ 数	カム 機構	点	標準 製品	減衰 方向	外觀図 NO.
K-101	P10KS 10K Ω	P形	10dB	1dB \times 10	10K Ω	100	15°	10	アリ	ナシ		減	K-1
K-102	P20KS 10K Ω	"	20dB	1dB \times 20	"	"	"	20	"	"		"	"
K-111	T10KS 600 Ω	T形	10dB	1dB \times 10	600 Ω	50	"	10	"	"	○	"	"
K-112	T20KS 600 Ω	"	20dB	2dB \times 10	"	50	"	"	"	"	○	"	"
K-113	T20KS 7K Ω	"	"	"	7K Ω	20	"	"	"	"	○	"	"

※上記一覧表内で一部変更のご注文は下記のようにご記入下さい。

例、カタログNO.K-101 変更箇所 { 1. インピーダンス 100K Ω
2. 減衰方向 増

注。(周波数、1ステップ角度、最大減衰量、減衰分割、インピーダンス、シャフト寸法)

等の変更についてはご連絡下さい。

